

3-1 課題解決のためのドリカムマップ

課題解決育成計画をもとに実施された授業内容一覧

令和5年度 1年

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
ESD 探究 1	クリエイター体験講座	先生たちの研究	SDGs講座	ロジカルライティング		クリティカルシンキング	地域探究活動	開の立て方	課題の立て方		
理数ゼミ 1	オリエンテーション	演習(物理・化学・生物・数学)			海洋生物観察実習	演習(物理・化学・生物・数学)	地域探究活動	開の立て方	課題設定	探究活動	
理数ゼミ 2		3年発表見学					企業訪問		中間発表見学		

学年	科目名	実施時期	探究活動	協働活動	ESD探究・理ゼミとの関連性	学年	科目名	実施時期	探究活動	協働活動	ESD探究・理ゼミとの関連性
1	現代の国語	各単元ごと	評論文を読み、筆者の主張をまとめたり、本文の内容を自分なりに解釈してわかりやすくまとめる活動を行った。また、筆者の主張に対する各自の意見を文意にまとめた。	筆者の主張や、本文の言い換え(記述)の解説を作成した。初めに各個人で問題の解説を共有し、ジャムボード上で全体共有した。他者との考えを交流することで各自の理解を深めることができた。	現代社会の課題に対する興味・関心の喚起、他者との協働活動による課題解決のためのクリティカルシンキングの醸成。	1	歴史総合	毎時	毎時間の課題を設定。その課題に対して初見資料を読み取って自身の仮説を立てる。	初見資料を読み取って立てた仮説をペアで共有する。その後、代表者の仮説をスクリーンに写しクラス全体で共有する。	歴史的事象の理解のみにとどまらず、課題に対して初見資料を元に仮説・考察・共有する。多面的に物事を捉える重要性に気付いた生徒もいた。
1	数学 I	5月	それぞれの班に割り当てられた、教科書の節末問題の解説を作成した。それをJamboardでクラス全体で共有し、様々な解法に触れたり、自分の班の解説を補足したりした。	応用問題に班で協力して取り組み、その解説を作成した。初めに各個人で問題に取り組み、次にそれを班で共有し様々な解法に触れたり、自分の班の解説を補足したりした。	クリエイター体験講座などを通して学んだ「協働的に課題を解決し、それを表現する力」を高める。	1	家庭基礎	9月	家庭生活から課題を見つけ、家庭科で学んだ知識や技術を活かすホームプロジェクトに取り組んだ。	各自の研究成果をグループ内で発表した。各自Googleスライドでまとめた内容を共有、発表をすることで、良かった点や改善すべき点を互いに認識し相互評価を行った。	互いの研究内容から、自分の家庭にもわかる課題について思考、検証することができ、より広い視野をもつきっかけとなっている。
1	英語コミュニケーション I	6月	バリのバイバイプラスチックバッグという運動の話を聞き、福岡県で自分たちがどのような活動ができるか、県内外のプラスチックゴミの量や取組について探究した。	自分が福岡県知事だったらプラスチックゴミを減らすためにどのような政策を行うか個人で考え、グループで発表、相互評価を行った。一番良い案をクラス全体で共有した。	SDGsについて学んでおり、国内外の関心が高くなり、自分事として捉え、具体的に考えていた。	1	理数DS	10月	数学で学んだ相関係数や回帰式を用いてデータ分析を行った。データ分析は、車の速度と制動距離の関係を分析した。(手元のデータにはない、データ予測も含む。)	個人で、2つのデータの関係性について分析を行い、隣やその周辺と意見交換をしながら、データの相関性やデータ予測の値について、意見交換を行う。	理数ゼミで行う研究の基礎となる「仮説・実験計画・実験・考察」の理解が深まるように取り組んだ。
1	家庭基礎	7月	夏休業者中の課題(ホームプロジェクト)についての説明を聞き、自分の家庭内での課題を考え、どのようなテーマで進めていくかを個人で探究した。	個人で考えたテーマをグループで共有し、自己の研究の参考にして、研究計画を立てるよう進めた。	今年度は、テーマ設定の段階でSDGsとの関連性を挙げて研究を進めるように説明し、次年度からのESD探究につなげた。						

令和5年度 2年

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
ESD 探究 1	アイスブレイク 問いの仮説が面白い問い	研究計画書作成	リサーチ①	リサーチ②		リサーチ③		中間発表準備		論文作成 最終発表準備	
理数ゼミ II	課題再設定	探究活動			探究活動	理ゼミ自英語ポスター発表見学	中間発表準備	中間発表	論文 英語ポスター準備		
			3年発表見学								

学年	科目名	実施時期	探究活動	協働活動	ESD探究・理ゼミとの関連性	学年	科目名	実施時期	探究活動	協働活動	ESD探究・理ゼミとの関連性
2	日本史 探究	毎時	事前に音声聞いて予習した授業の内容を基に設定した問い、資料を活用しながら読み解く活動を行った。	各単元で設定された問いについて、自分の意見を述べたうえで他者と共有し、歴史の見方や考え方を養う活動を行った。	課題研究で行う「仮説・実験計画・実験・考察」のプロセスを活用しようという設定や探究活動を行った。	2	論理国語	9月	「おすめの観光地を紹介する」という課題を設定。興味のある場所についてネットを用いて調べた。ポスターにしてまとめたものを共有ドライブに保存した。	自分が調べた事柄について、班員に発表・紹介をした。その際に出た疑問や質問について答えたり、検査したりするなどして知識を得ると同時に、興味・関心を深めた。	他者の発表を聞き、自分とは異なる考えを持つものを受け入れていく中で、多様な見方や考え方があがることを学んでいった。
2	論理国語	5、6月	評論を読み、筆者の主張とそれに対する自分の意見を記述させる活動を行った。その際、意見交換をして出た内容をまとめさせ全体での発表をする機会を設けた。	少人数の班で意見交換を行い、考えの共有を図った。またジャムボードに意見をまとめながら交流し、全体に向けて発表することで多様な意見があることを理解することができた。	一年時のクリティカルシンキングの体験を活かし、筆者の主張に対し自分はどう思うか理由も付けて意見を表明する活動を行った。	2	数学 II	10月	「積分・積分」の単元における問題を個人で作成した問題をグループで共有する。良い点や課題点などを明らかにしながら活用し、発展させるという課題に取り組む。作成意図も記述させる。	個人で作成した問題をグループで共有する。良い点や課題点などを明らかにしながら活用し、発展させるという課題に取り組む。作成意図も記述させる。	他者の思考の過程を想像し、見方や考え方の違いに気づかせる。ESD探究のグループ内で多様な価値観を理解する姿勢を育てることにつながる。
2	理数 DS	6月	文字認識の学習の一環である手書き数字の判定について、自分が手書きした数字と機械学習した数字が一致しない場合がある理由を探究した。	今までの学習内容と調べた内容を踏まえて考察し、個人の意見をまとめた。その後、ペアで意見を交換し、ペアの意見をすり合わせながら、考えをまとめていった。	意見の根拠を明確にし、人に伝えるときに、納得してもらえる内容になっているかに焦点を当て、考察した。	2	コミュニケーション英語 II	10月	「発明品の長所・短所」というテーマで、調べ学習を行い、自分たちの生活の中で関心のある発明品の開発に至るまでの歴史や、短所に対して私たちがどう付き合っていくべきかを英語で発表させた。	班のメンバーがそれぞれ調べた発明品について発表。自分の新たな見聞や考えを聞き、班で協議した。発明品の背景を学ぶことで、発明について学ぶことの楽しさを感じることができた。	歴史的な発明品の開発に至るまでの経緯を調べ英語で発表し合うことで、発明品の長所・短所を考え、多角的に物事を考える姿勢が生まれた。
2	コミュニケーション英語 II	7月	「給食を充実させることは虐待にあたるか」という論議で英語イベントを行った。環境、経済、教育、健康といった様々な側面から長所・短所についてそれぞれのチームで考えをまとめ、ディベートを行った。	生徒自身の経験や考えをもとに意見をまとめ、将来に向けて、「給食を充実させる」場合社会にどのような影響を与えるのかを互いの意見を出し合い考えを深めた。	現代社会の身近な課題を自らの問題として捉え、課題に向けて新たな価値観を学ぶため、肯定側・否定側ともに自分の生活に置き換えて考えていった。	2	保健	10月	環境問題の単元において、自らの気になった問題に対して、複数の資料を活用し、レポートにまとめた。また、その際、気になった問題に対して多角的に調査した内容のように私生活にいかすことができるのか、考察をまとめた。	作成したレポートを他者と交換し合い、問題点や私生活でいかに活用できる内容について意見交換を行った。	環境問題の観点だけでなく、多角的な視点で、物事を捉え、自らの生活へどのように反映させることができるのか、考えることができた。
2	化学	12月				2	化学	12月	硫酸銅(II)水溶液の電気分解を行い、流した電流の大きさ、時間、銅の質量変化からファラデー定数を求める。理論値とのずれの原因を考察するとともに補正の方法について考えさせる。実験における誤差を小さくする方法について探究する。	電気分解の様子を観察し、記録した内容をもとにファラデー定数を算出する。理論値とのずれの原因や補正の方法について班で協議する。	実験で得た数値やデータには誤差があり、その誤差の扱いについて学ぶ。課題研究におけるリサーチでのデータの正確性や誤差を小さくすることに繋げていくことをねらっている。

令和5年度 3年

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
ESD 探究 1		論文訂正 ポスター作成	発表準備 最終発表	論文完成							
理数ゼミ III		論文訂正 ポスター作成	発表準備	論文完成			英語ポスター発表				
			課題の探究			表現力					

学年	科目名	実施時期	探究活動	協働活動	ESD探究・理ゼミとの関連性
3	生物 探究	6月	酵素の性質について仮説を提示し、実験結果から考察、仮説を裏証させた。その活動を活かして大学入試共通テストに挑戦した。	班で計画や実験を行い、結果から考察し、班内や他の班員とも意見を交換し、結論を導いた。	課題研究での「仮説・実験計画・実験・考察」の体験を活かし、授業で扱う実験について、仮説の実証を試みた。入試問題の読解につながるものである。
3	コミュニケーション英語 III	6月	「SNSに投稿すべきかどうか」という論議で英語イベントを行った。誤解する恐れのないサポーターをチームメイト同士で話し合いながら論の内容を深めた。	相手のチームがどのような反論をするかを予測したり、自分たちの主張を強めるためのサポートをチームメイト同士で話し合いながら論の内容を深めた。	ロジカルライティングとクリティカルシンキングを通して、自分の主張をより論理的に説明する。また相手の意見に対してその主張・情報に本当に正しいかを注意深く考える。